

	牧師 山本護	司式 辻りち子	奏楽 花曲琴音
前 奏	黙想	祈 禱	
讃美歌	11 あめつちにまさる	讃美歌	239 さまよう人々
祈 禱		献 金	
信仰告白	使徒信条 566	讃 詠	547 いまささぐるそなえものを
聖 書	申命記 16:2~3 ルカによる福音書 22:1~6	黙 禱	
讃美歌	285 主よ、み手もて	主の祈り	564
説 教	『無力に宿る神の力』	頌 栄	545 父のみかみに
		祝 禱	後 奏

「さて、過越祭と言われている除酵祭が近づいていた。祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいか考えていた。彼らは民衆を恐れていたのである(ルカ 22:1~2)」。祭司長と律法学者の立場は相当違って、議会内では何かと対立していたが、イエス殺害の企てにおいては以前から一致していた(19:47)。それにしてもなぜ、人々が集まる過越祭期間の殺害なのか。「民衆を恐れている」のだったら、人が少ない時期を選べばいいのと思うのだが、過越祭とは何であろうか。

「あなたは、主がその名を置くために選ばれる場所で、羊あるいは牛を過越のいけにえとしてあなたの神、主に屠りなさい。その際、酵母入りのパンを食べてはならない。七日間、酵母を入れない苦しみのパンを食べなさい(申命記 16:2~3)」。エジプトから自由へ解き放たれる喜びの過越祭なのに、「苦しみのパン」とはどういうことか。屠られて血を流した羊や牛を覚える「苦しみのパン」。救いはキリストの血と苦しみによって実現するが、キリストの死は過越祭と二重写しになっている。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺される(ルカ 9:22)」。十字架、すなわちイエスの生涯の目的が明確になるには、過越祭がもっともふさわしい時期なのかもしれない。

権力者らはイエス殺害に際して「民衆を恐れていた(22:2)」。民衆の何を恐れていたのか。一斉蜂起のような、いわば量的な力を恐れたのか。そうかもしれない。だがそれだけだろうか。議会の勢力圏は神殿貴族的な祭司長(右派サドカイ)と、インテリの律法学者(左派ファリサイ)。ユダヤ独立をめざす過激な熱心党は、聖書に忠実な律法学者と心根が近い。そしてそもそも律法学者の出自は庶民だから、民衆の熱気に拒絶的だとは思えない。それでは彼らが恐れるものは、いったい民衆の何であろうか。

「毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、どうすることもできなかった。民衆が皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである(19:47~48)」。イエスの教えに民衆の心は素直に開かれていた。神の力が現れるのは、そんな民衆の無力さにおいて。暴動や団結のような人間の量的な力ではなく、無力な民衆個々に宿る神の力。権力者もまた信仰者であり、半ば分っていたのではないか。民衆の無力に宿る神の力を恐れ、人間の力の側へ引き寄せようとした。人間の力なら治められるし、そのための飴と鞭なら使い慣れている。

「しかし十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った(22:3)」。するとユダはイエスを引き渡す提案をし(22:4)、神殿の権力は金を与えた(22:5)。出家までして従った十二弟子の一人が幾ばくかの金で変節するだろうか。それともサタンの力でユダは操縦されただけなのか。だったらユダに罪はあるまい。禍々しい神秘の霊力みたいに考えない方がよい。「サタンが入ったとしか思えない」状況なのだ、と福音書は語る。人間の力の側に引き寄せようとする権力の罠に、ユダはまんまとひっかかった。ユダは無力に宿る神の力を頼りきれず、人間の才覚で何とかしようとした。

私たちは、愛されている無力で無名な民衆。だから「イエスの話に聞き入って(19:48)」いたい。自分を無力のままに開いて、聖霊を私の内に迎えたい。雲行きが怪しくともキリストに従って行きたい。

目玉焼きに教えられた 手を出さずに待てばいいのだが 待ってられず黄身がトロリと流れ出る
ユダは十字架を回避したかった だが神の無力に辛抱できず 自分の才覚で何とかしようとした

今日から受難節、4/9の復活祭まで続きます。先週掃除をしなかったので本日礼拝後に掃除します。
2/27(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(山梨 YMCA)。牧師の動き:3/2(木)刑務所で教誨。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。